

伊豆諸島・神津島でのフィールドワーク
地域に根づく医療活動を行っています

「こんにちは。お体の具合はいかがですか？」「ありがとうございます。あら、去年も島に来てたわね」。東京より海上を南へ178km。ここは太平洋に浮かぶ伊豆諸島・神津島。人口約2000人の小さな島で地元の方々に声をかけているのは、帝京大学医学部・熱帯医学研究会の学生たちです。あまり聞き慣れない「熱帯医学」とは、熱帯地方特有の疾患を研究する学問のこと。帝京大学では、そこから発展して、気候風土に限定されず、地域に密着した公衆衛生活動のあり方を勉強しています。神津島には診療所がひとつしかなく、急病人は都内までへりで搬送するという環境。そこで大切になる予防医学の意識を、島の方々に持ってもらうのが活動の目的です。初めて学生たちが島にきた3年前はすべてが手探り状態。島の方々に調査アンケートを行っても警戒心を解けず、健康教育イベントを開催しても人が集まらない。そんなときに相談に乗ってくれたのが、神津島保健センターのみなさん。保健医療課長の中村勝二さんはこんな話をしてくれました。「学生さんは若いパワーでいろいろと提案してくれるのですが、島の人には島のリズムがあるから、なかなか上手くないかな

部分も出てくるんです。でも、失敗するかもしれないけれどやってみる。ダメだったら、そこにきつと何か原因があるから、発見して改善する。その積み重ねが経験として生きてくる。そういう意味では3年というのはまだ短い。毎年の経験が重なれば、もっと活動の意義が深まっていくのかなと期待しています」。続けることで活動を知ってくださる村の方々も増えてきました。学生たちはコミュニケーション面での苦労を乗り越えて、ようやく手応えをつかみ始めたところ。今年の目標は「島に根づくものを作ること」と、会長の医学部医学科3年生の傍島千尋さんは言います。外部からやってきた学生本位の活動で終わらせてはいけない。島に伝わる民謡を使ったオリジナルの健康体操や、定期的なウォーキングをサポートするシステムの考案。また、島のケーブルTVでの健康番組の制作もスタートさせようと意気込んでいます。「フィールドワークを通して島の方々が求めていることを理解し、自分たちができることを考えて実践していきたい。そのことが、微力ではありますが、勉強させていただいている島のみなさんへの恩返しになればと思っています」。地域医療に携わる学生一人ひとりの貴重な経験。日本の未来にとっても大切な積み重ねになっています。

feel TEIKYO ft

あなたにつながる帝京大学 撮影・加瀬健太郎



帝京大学 本部大学PR推進室
TEL.03-3964-4162
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1



帝京大学をもっと感じるマガジンをお届けします
帝京大学のあれこれを充実のコンテンツと心地よい写真で紹介する冊子「feel TEIKYO」を配布中。特別付録は大宮エリーさんの書き下ろし小説です。請求先 → post@med.teikyo-u.ac.jp (本部大学PR推進室)